

令和5年度 第4回「部活の未来を考える会」会議録

会議名	令和5年度 第4回「北九州市部活の未来を考える会」
会議種別	市政運営上の会合
日時	令和5年10月31日（火）15時00分～16時30分
開催場所	生涯学習総合センター（北九州市小倉北区大門一丁目6-43）
出席者	<p>[構成員] ※ 50音順敬称略          岩谷 かおり、上村 英樹、馬本 正和、倉本 京子、下田 功、          新谷 麻美、園田 美恵子、園山 浩、高田 俊也、花田 佳子、          松井 清記</p> <p>[事務局]          教育次長、学校教育部長、特別支援教育担当部長ほか5名</p>
次第	<p>1 教育委員会あいさつ</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 部活動地域移行に関するアンケート調査結果について</p> <p>(2) 「指導者の確保」について</p> <p>3 諸連絡</p>
会議経過 (発言内容)	<p>1 教育委員会あいさつ</p> <p>【教育次長】</p> <p>これまで、様々な課題、或いは今まで部活動が担ってきたいろいろな意味合いについて議論いただいた。本日の議事はその中でも、部活動地域移行に関するアンケート調査結果をまとめたものが出たのでお諮りしたい。また、あわせて指導者の確保についてもご意見を伺いたい。</p> <p>この後、アンケート調査の概要を説明するが、生徒・保護者からは、「専門の指導者から教えてもらいたい」、「初めてでも楽しめる部活動が良い」などの声も上がっている。また、教員の半数以上は部活動指導の継続を希望しておらず、「プライベートを犠牲にしている」、「地域移行してほしい」などの声も上がっており、部活動を地域移行することをもって取り組まなければならない課題であると認識している。</p> <p>また、指導者や受け皿となる団体をどう確保するかという課題も大きなものと捉えている。先日、スポーツ・カルチャー各部会においても、意見をいただいたが、北九州市のスポーツ・文化シーンをどう維持するかという話にまで発展した。中学生にとって望ましいスポーツ或いは文化活動が整備されなければ、将来的に北九州市におけるスポーツ・文化シーンが衰退することも危惧され、各学校において、部活の運営が困難にある今、本市における大きな課題であると感じている。</p> <p>本年度の会議は本日を入れて、残り3回である。皆様からいただいた意見をもとに、今後の具体的な方向性を示していきたいと考えている。</p> <p>○ 会議資料確認</p>

## 2 議事

### ○ 公開非公開

#### 【座長】

原則通り公開ということによろしいか。

(承認)

### (1) 部活動地域移行に関するアンケート調査結果について

#### 【事務局】

資料2はアンケート調査結果の概要である。アンケート調査は、中学生、中学校保護者、教員、そして、小学校5・6年生保護者を対象に実施した。調査期間は令和5年6月6日から6月23日である。対象及び回答数は記載の通りである。抜粋して説明する。

まず、中学生アンケート結果概要である。2ページ。質問1「中学校の部活動を地域移行して欲しいですか」という質問について、中学生は地域での活動よりも学校活動として活動したいと感じているという結果であった。また、質問13「部活動や学校外のクラブでの活動で、もっとこうなったらいいにと思うことがあれば教えてください」という質問については、「気軽に参加できる活動が良い」、「専門の指導者から教えてもらいたい」、また、「練習場所を確保してほしい」などの回答が多くなっている。続いて3ページ。質問14、質問2で、運動や文化に関わる活動をしていないと回答した生徒のうち、5割以上はやりたいことがないと回答している。またその下の表であるが、質問14でやりたいことがないと回答した生徒のうち4割以上は、課題等が解消すれば参加をしたいと回答している。

続いて4ページ。中学生、保護者のアンケート結果である。質問1「中学校の部活動を地域移行して欲しいですか」については、中学生の保護者は地域での活動よりも、学校活動として活動して欲しいという回答が多くあった。また、質問20「部活動地域移行後の活動に参加する場合、毎月の会費としていくらまでの負担なら許容できますか」については、月1000円以下から3000円程度までが約8割を占めている。

続いて5ページ。教員に関するアンケートの回答である。質問8「現在担当している部活動の指導を継続したいですか」については、継続したくないという回答が継続したいを6ポイント上回っている。また、質問10「指導を継続したくない理由は何ですか」については、「プライベートを犠牲にしている」、「専門的な知識がない」、「他の仕事ができない」などの理由が上位を占めている。続いて6ページ。質問26「中学校の部活動を地域移行して欲しいですか」については、教員の約6割が部活動地域移行望んでいるという結果であった。続いて7ページ。質問29「報酬が支払われるなら、地域移行も指導したいと思いますか」については、部活動地域移行後、報酬が支払われても指導に従事したくないと考えている教員が約6割にのぼった。また質問29の下の表である。質問8「担当している部活動の指導を継続したいですか」と「地域移行及び移行後の指導を希望するか」の関係を示している。左側の表では質問8で、部活動の指導を継続したいと回答した教員のうち3割以

上が地域移行を望んでいることがわかる。また右の表では、質問8で、部活動の指導を継続したいと回答した教員のうち3割以上が、報酬が支払われても指導をしたくないと回答していることがわかる。そして部活動の指導を継続したくないと回答した教員の中にも報酬が支払われるなら指導したいと回答した教員も一定数いる。さらにその下の表は、教員の競技経験の部分や、希望した分を指導しているかと、地域移行を希望するかとの関係を示している。競技経験の有無や、希望した部活、希望していない部活にかかわらず、地域移行望む声が高くなっている。

最後、8ページ。小学校5・6年生保護者アンケートの結果である。質問1「中学校の部活動を地域移行して欲しいですか」については、小学校5・6年生の保護者、また児童は地域での活動と学校部活動どちらも同様の数字であった。質問10「毎月の会費としていくらまでの負担なら許容できますか」については、地域を移行後の費用負担については、月1000円以下から3000円程度までが約7割を占めている。

アンケート結果の概要は以上である。

#### 【委員】

市のモデル事業に指導者を派遣している。今後、指導者にも「このまま続けたいかどうか」、「何か課題があるのか」、等もアンケートしていただければ、違った視点で見えてくるものがあると考えます。ぜひ実施していただきたい。

#### 【事務局】

モデル事業については、指導者だけではなく、保護者や生徒にもアンケートを実施する予定である。

#### 【委員】

アンケート概要ではなく詳細な方には、運動系と文化系を分けて分析したような資料があるのか。

#### 【事務局】

回答のままを載せている。

### (2) 「指導者の確保」について

#### 【事務局】

資料1をご覧ください。前回は触れたが、先ほどのアンケート結果の一つ、「報酬が支払われるなら地域移行後に指導したいと思うか」について、63%の教員が「支払われても指導したくない」と回答している。現在の北九州市の状況であるが、今年度、運動部が382部、文化部が182部、合計564部設置があった。「報酬が支払われても指導したくない」という回答が63%であったため、単純計算ではあるが、355部で指導者が不足する計算になる。

また、スポーツ庁文化庁の有識者会議の提言にも、指導者の確保というのは、課題の一つとしてあげられており、「専門性や資質を有する指導者の量を

確保する必要がある」と示されている。

そして、学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等に関する総合的なガイドラインの中にも、教師の兼職兼業はもちろん、企業、大学生、高校生、保護者等、「様々な関係者から指導者を確保する」、求めに応じて指導者を紹介する「人材バンクを整備するなど」というような文言が入っている。

続いて、先日開催した、スポーツ部会、カルチャー部会で出された意見をまとめたものを紹介する。

まずは、スポーツ部会である。スポーツ部会では、大きく分けて三つの課題が出された。

一つ目は、部活動地域移行に関する具体的な内容を周知する必要があるということである。具体的には、団体によっては指導者の派遣ができないと認識している団体もあり、派遣ではなく、受け皿となることも一つの方法であることを周知する必要があるのではないかということ。また、保護者の理解を深めるために、明確に、より具体的に伝える必要があるのではないかということ。形がはっきりしないと、協力体制も構築しにくいこと。こういったことが具体的な意見としてあげられている。

二つ目が、指導者の派遣については、人材バンクのような登録システムが必要であるということである。具体的には、企業や団体は、教育が専門ではないため、時間や内容等のカリキュラムの設定があれば、派遣が可能であること。また、指導者を登録制にして派遣するなどの制度設計が必要であるということ。などが意見としてあげられている。

三つ目は、北九州市のスポーツシーンをどうしていくかについても考える必要があるということである。具体的には、部活動地域移行だけにとらわれず、北九州のスポーツシーンをどうしていくのかということ。中学生は、市外県外にスポーツの場を求めて流出していくことが懸念されること。などが意見としてあげられえている。

続いて、カルチャー部会である。同様に、三つの課題が示された。

一つ目は、関係団体の協力を得るために、周知の場を設ける必要があるということである。具体的には、市内には様々な文化系の団体があるが、これらに周知がされていないこと。どのような形であれば協力できるのかを検討するためにも、各団体に周知をしてほしいこと。などが意見としてあげられている。

二つ目は、派遣についての安全・安心を確保するためにも、登録制度等を整備する必要があるということである。具体的には、指導者派遣の制度が整備されると、学校や保護者も安心するのではないかということ。制度設計、責任の所在等がきちんとできれば、派遣しやすいこと。指導者も団体も市の登録制にし、お墨付きを得るのが良いということ。セクハラ等の防止のため、資格を取得することや、責任の所在を明らかにする必要があること。などが意見としてあげられている。

三つ目は、北九州市のカルチャーシーンを含めた検討が必要であるということである。具体的には、中学、高校とも吹奏楽の人口が減少していることを取り上げ、例えば発表する場がないこと。市内に様々な団体で中学生が参加できる方法を模索すべきではないかということ。地域の活動にするので

あれば、「する」、「知る」、「見る」、「支える」など、文化シーンの盛り上げも必要ではないかということ。などが意見としてあげられている。

両部会の意見をまとめると、大きな方向性として、部活動地域移行にあたって一定の指導者の確保が必要であること。

具体的な内容としては、部活動地域移行について大枠を決定し、生徒、保護者、学校はもちろん、関係団体や市民に向けて周知する必要があるのではないか。例えば、シンポジウムの開催やチラシの発行などが考えられる。

また、安全安心な活動にするために確保した人材を登録するような制度設計が必要なのではないか。例えば、人材バンクの設置や登録制度などが考えられる。

そして、単に部活動を地域移行する機会ではなく、北九州のスポーツ・文化シーンの未来に繋がるものにする必要があるのではないか。例えば、施設使用の基準の整備や成果発表の場の確保などが考えられる。

### 【委員】

日本スポーツ協会の福岡県の指導者協議会に関わっている。地域移行の話をする中で、指導者の方は「やってもいいよ」とは言うが、「どこが」、「誰が」、「どんなふうに」地域移行するのか見えてこないとも言う。競技団体として、地域移行に関わることは競技人口が増え、強化につながるが、内容が見えず、案内等もないため、取り組むこともできずに心配されていた。まず、どういう体制で取り組むのかを早々に決めていかないといけない。

また、指導者も数に限りがある。実際、私たちのクラブでも、求人誌に掲載をしたり、人づてに大学生に声をかけたりと、次世代の指導者確保に努めてはいるが、なかなか増えていかない。現状としては、指導者よりも、まだ競技を続けたいと思っている人が非常に多いため、競技をしている人を指導者として取り込むような体制を模索しているが、なかなか難しい。そういう意味では、早く大枠をまとめて、声かけができるようにしてほしい。

また、管理の問題もある。クラブで採用している指導者であれば、指導に関する様々な話ができるが、人材バンクから派遣された指導者となると、コントロールがきかない。人材バンクの設置元がコントロールをしてもらえるかということ、人数が多く難しいと思う。そこをどう解決していくのかを含めた検討が必要だと思う。

### 【委員】

人材バンクとはいっても、指導者をプールするようなものには多分ならない。これまでの歴史にもあるように、指導者だけで生活することはできない。実際には、ボランティアという形になる。ボランティアにもいろいろな人がいるため、全てを人材バンクで管理できるのかということ、難しいところでもある。実際には、土日の部活動での指導者と、学校の活動での指導者を変える等の工夫がない限り難しいところではある。

各都道府県の市町村では、地域移行の取組が始まっているところもあるが、実際には、地域の指導者に丸投げのところも少なくない。当然、大学生がいる場合は大学生を使ってというボランティアみtainな形でやっているが、体

制として何かしらのシステムがあるかという点、現実的にはどこもまだない。

これまでの議論であったように、連携部活動のやり方に、指導者の派遣の仕方や指導者の質の担保というのが、引っ付いてこないと多分難しいと思う。例えば、スポーツに慣れ親しむ程度の部活動であれば、当然ながら、先生や地域のボランティアで問題ない。しかし、トップを目指すような状況になると、専門の人が必要となる。当然そうになると、費用負担という部分にも関わってくる。そうになると、一律的な形を北九州市で提案するのは難しいと思う。

#### 【委員】

カルチャー部会で、コンフォート・ウインドアンサンブルの話聞き、吹奏楽の場合は、楽器の管理や練習場所の確保などの課題はあるが、土日のみ集合して部活をやった場合でも、ある程度の精度を上げて、そろって練習することは可能だと思った。日頃の部活の時間は個人練習を学校で行い、土日だけ集中的に集まって、そこにレベルの高い指導者が来てくれれば、合奏の精度を上げて、コンクールの入賞の実績もあると言われていた。そういう大人数で行う音楽活動については、今考えられている土日の形が、もしうまく具合に合致すれば、やっていける可能性はあるのかなというふうに思った。

その他の文化部について、演劇などもお話を聞いたが、そういうところになると、逆に土日は自分たちの活動があり講師派遣は難しいというものであった。平日についても、練習を夜にするため、中学生に合わせるのがなかなか難しいようであった。

先日、児童文化科学館で子ども狂言というのを見る機会があった。伝統文化系もレベルの高い指導者がいらっしゃるのであれば、土日に実施できるのかなと思う。

#### 【委員】

私もカルチャー部会に参加して、制度を整えていかないとなかなかマッチングさせるのは難しいと感じた。どこかが統括するような制度がないと、なかなか進んでいきにくいと思った。

北九州の音楽の団体を考えたときに、団体自体の指導者の高齢化もあって、団体も次の指導者を探しているようなところがある。

部活をやりたいという先生が退職されて、そのまま学校に入っていたという道筋ができれば、指導というところの経験も担保できる。

#### 【委員】

部活動自体、継続が難しい場合もあるため、連携部活動等でつなぎつつ、適正化するべきではないかと考える。中学校の先生たちの不安の一つは、どんな人が来るかわからないことである。教育の場というのは、特殊な事情がたくさんあるため、不安は大きくなる。

他県の先生と話していると、小学校の先生が部活動に従事したいというのは、実は少なくない。兼職兼業の仕組みができれば、小学校の先生の派遣というのも、今後、市町村をあげて考えていく一つの方向性ではあると思う。

人材バンクに、情報として指導者を集めることは、おそらく必要にはなる

と思う。しかし、現実には、そういうバンク的なポジションをどこに置くのかという問題もある。外部に委託できるかということ、委託料が発生するため、また難しい。どういう形にするのかは検討が必要である。

#### 【委員】

人材の確保をどのような形とするのか、地域移行の形のベースになるのはどんな形か、北九州の目指す最終形のベースになるものがないと、なかなか進まないのではないか。例えば、中学校をメインとするのであれば、中学校の体制をしっかりとした上で、人材バンクから指導者を派遣していただくという形がいいと思う。また、地域が中心になるのであれば、そこに教師がどう参加できるかということも議論しなくてはならない。

部活動を今後、教育活動とどう切り離していくのか。教員の多忙感を取るためだけではないと思う。子どもたちにとって、本当にいい形は何なのかとかいうことも考えていかないといけない。

現実に学校では、専門の顧問がいないとか、或いは、専門の先生が何人もいるという状況がある。本校を例にすると、バレー経験者は4人もいるが、バスケットボール経験者は1人もいない。しかし、男子も女子もバスケットボール部があり、毎年、顧問を誰にお願いするかをものすごく苦勞している。それが改善できないまま、活動場所や派遣の形といってもなかなかピンと来ない。

北九州で言えば、かつて柔道は、全国で優勝するような中学校があり、すごくレベルが高かった。しかし、北九州市の高校は県でベスト8に残るかどうかというレベルである。結局、福岡市や筑後の高校に行っている。結局、いいものがあったても、次の受け皿がない。これと同じようなことが起きたのでは、北九州は衰退していく。小学生の活動を延長しながらやっていくというのも一つの方法ではないか。そういった活動を、施設の整った学校にどう取り込むかを考えないといけない。

#### 【委員】

北九州市は学校により、人数の違い、部活動の数の違いがある。例えば、完全に地域の活動にする地域もあれば、拠点校型でやる地域もあるというように、様々な形で部活動のあり方を模索するしかないと考える。そのため、結論を今すぐに出せるわけではないが、それぞれの地域に合った形で実施することと同時に、スポーツのあり方、文化のあり方まで考えた取り組みというのが必要ではないか。いわゆる、競技志向的な内容と、それから生涯体育スポーツ的な内容を選択するような形まで考える必要があるのではないか。そう考えると、部活動のあり方自体を英断しないといけないのが、この会議の最終的な部分ではあると思う。

#### 【委員】

今後、学校で複数の部活動を実施するのは大変である。例えば、拠点を作って、A中学校は野球、B中学校はサッカー、C中学校はバレーなど、その地域であれば、どこでも進学できる地域もある。北九州市では難しいかもしれな

いが、もっとオープンにして、近隣の学校や通学可能な範囲であればよいなど、部活動を魅力化していくと、学校が部活動で盛り上がる。もちろん、それによって人数の格差が出て、人が全然集まらない学校がでてくると、何にもならないが。

### 【委員】

今の時点で、地域移行に関して、北九州市が単独でこうしますとは、なかなか言えない状況ではないか。中学校体育連盟が主催する大会が、運動系の部活動の発表の場に70年以上前からなっている。この大会がある以上、学校部活動という枠組みは無くせないと思う。そして、出場するからには、それなりのチームづくりをしていかないといけない。

少子化により部活動の運営が、なかなか継続できない中、合同部活動と、北九州市は一昨年から、連携部活動を始めた。現在、北九州市には、合同部活動と連携部活動のハイブリッドチームが4チーム以上ある。ただし、全日本中体連には、ハイブリッドの状態では参加させないというレギュレーションがある。それを、9月、10月にあった福岡県の会議で、北九州市から、もし県大会の出場権を得たら出場させて欲しいと提案し、通った。初めてだが、八幡西区にある中学校2校の合同チームに、別の学校から連携部活動で参加しているハイブリッドチームは県大会出場を一昨日決めたところである。決して勝利至上主義でやっているわけではない。子どもたちを救済するために、北九州市がやっていることであり、これを認めて欲しいということで、いろいろ議論があったが通していただいた。

ところが、今年の夏からクラブチームが中体連の主催する大会に承認条項に合致すれば出場できるようになった。ご存知かもしれないが、福岡県内から出場した男子バレーのクラブチームが全国2位になっている。意図が違う、ステージが違うチームが、運営のほぼすべてを中体連の専門部が担っている中体連の大会に参加するという状況が始まっている。

この中体連の全国大会までのプロセスは、令和7年度まで決まっている。これまでは、5年先、6年先、7年先まで決まっていたが、今は、7年度の全国大会までしか決まっていない。あくまで私の予測であるが、もしかしたら要素を変えて、交流大会みたいになるのではないかと考える。そのため、それが決まってからでないと、学校から部活動という枠組みを外せない状況がある。

クラブチームが、今後、どんどん出てきたとしても、学校の部活動がゼロになり、部活動を地域移行して中体連の大会をするというのは矛盾していると思う。今の段階で、完全に地域移行して、組織やその運営が学校じゃないところに移行し、チームづくりをしていくのは非常に危険であり、できないと思う。

そのため、合同部活動や連携部活動を用いた拠点校。あくまでも、学校主体のスポーツや文化活動をするというグループ団体はゼロにはできないという前提で、今後進めていかないといけないと思う。



**【委員】**

アンケートの中にあつた、「報酬をもらっても指導したくない」これは、裏を返せば、今までの部活動、要するに、授業をし、担任を持った先生が、部活動と一緒に頑張り、喜びなどを共有する、そういうイメージが強くなるから、「お金の問題じゃない」という意味も含まれるのではないか。部活動は、学校生活トータルで成り立っている。私は、教員の回答に、いろいろなヒントが詰まっていると思う。

そのため、我々は、子どものことを一番に考えないといけない。毎日、毎日、指導者変わる、それでいいのか。週末だけ教えに来る人がいて、うまく人間関係ができるのか。子どもは不安にならないか。これらを踏まえて、中体連の行く末を見ながら、ゆっくり、北九州市として進めていくしか今はないのではないか。変える方向に進むのは間違いないが、急激に変えるべきではないのではないか。まずは、学校の部活動を拠点校などにゆっくりと変えていき、その枠組みをベースにしながら、部活動とクラブチームが共存していく中で、地域移行を進めるのも一つの方向性ではないかと思う。

**【委員】**

カルチャー部会のまとめの中で、「発表する場がない」とある。先日、南区のある市民センターで、ふれあい祭りがあり、小・中学生が吹奏楽の発表をした。市民センターには、施設を利用する際の決まり事があるため、利用もしやすいと考える。また、文化祭なんかは、地域の人が結構来るため、地域とのつながりもできやすい。

**【委員】**

先日、所属する学校で地域のイベントに出た。吹奏楽部が、発表の場をいただけるのはとてもありがたいことであり、積極的に参加したいとは考えている。しかし、参加するには、生徒と楽器の移動の手段が必要である。楽器の移動のために、保護者に車を7台お願いしているのが現状である。本当は、トラックを借り運搬できればよいが、3～4万の出費となるため、難しい。

**【委員】**

地域には、市民センターとまちづくり協議会がある。まちづくり協議会は、ある程度の予算を持っている。楽器の運搬等の相談をしていただければ、助成してくれるかもしれない。市民センターの館長を通じて、相談するとよい。

**【委員】**

競技志向から楽しむ方向に変わることを決めないといけない部分もある。一方で、競技志向を選択する生徒への補償も考えないといけない。中体連の件も、国が認知して、様々な紙上で指摘がされている。

しかし、これは全国的な流れでしかなく、北九州市で考えるときに、どんな形で部活動を運用するのか、その選択肢作りをみんなが同意できるような形を作らないといけない。それぞれで考えてくださっては進めない。

### 【委員】

人材バンク等、組織の維持のためには費用が必要になってくる。今後、議論を進める中で、お金を集めることが得意な方やスポンサーになりうる方などを委員として任用することで、系口が見えてくるのではないかと思う。

先日、福岡県の部活動改革セミナーに参加した。静岡県のある都市では、学校が主体となった体制を整備すると発表され、同じ静岡県の別の都市は、学校での部活動を令和8年からやめるという衝撃的な発表であった。しかし、それぐらい衝撃的なことをやっていかないと、この部活動の問題は解決しないのかなと思う。

部活動地域移行については、私たちでは入ってこない情報があるかと思う。できたら、全国各地の情報を事務局より出していただければ、間違っただ目で見ることなく、考えが繋がっていくと考える。

### 【事務局】

委員の選定について、制度設計など、細かいところについては、現在の委員ではない方に入っていただくことも検討する。各都市の状況については、情報があれば、随時、提供したいと考える。

### (3) 「休日部活動のあり方」について

#### 【事務局】

前回、休日の部活動の在り方について議論していただいた。しかし、休日部活動の在り方については、今回の議題である「指導者の確保」とセットで考えていかないといけないというご意見があり、議論が途中であった。

前回、委員からは、段階的に休日の部活動を減らしていったらどうかとの意見やモデルをしていきながら土日は地域の活動としてはどうかというご意見いただいている。他に意見があればいただきたい。

### 【委員】

コンフォート・ウインドアンサンブルの指導者の方を知っている。平日は吹奏楽部の活動があり、土日に彼の指導を定期的にするため、1週間ごとレベルアップしていき、成績が出ているというふうに認識している。

これは、日常の活動がベースにあると考える。土日の指導であれば、平日は個人練習でいいと考えがちだが、中学生には難しい。私は、兼務であり、本務校と兼務校を行ったり来たりしているが、兼務校では週1回しか部活動の指導ができない。生徒だけでは、なかなか蓄積が難しく、その蓄積をするために、空いている時間を使って練習の教材を用意したり、教具を作ったり、説明をしたりしなくてはならない。上達しなくても、ただ楽しいだけでいいのであれば、必要ないのかもしれないが、そこが難しいと思う。吹奏楽に関しては、コンテストがあるため、コンテストを目標にするのであれば、ある程度の積み重ねができる環境づくりをしていかないといけないと思っている。

全国的に見て、吹奏楽連盟が主体となって部活動地域移行を支えようとしている動きもあるようだが、それぞれの課題があるようである。

**【委員】**

土日に高いレベルの指導を受けるとなると、平日の練習が必要になるということである。

**【委員】**

比較にはならないかもしれないが、北九州ジュニアオーケストラというのがある。ジュニアオーケストラは、プロの先生方がレスナーとなり、おそらく練習は土日しかしていない。平日は、持ち帰って家庭で練習していると聞いている。中には吹奏楽部に所属している生徒もいるが、それでも土日、専門の先生にじっくり見てもらうおかげで、半年に1回は芸術劇場やソレイユホールで演奏会ができています。このような形も選択肢の一つとして用意できればよい。

**【委員】**

北九州市だけではなく、合同部活動の数が非常に増えており、これからも増えると見込んでいる。例えば、小倉北区の軟式野球は、ほぼ全てが合同部活動である。チームプレーが必要であるため、土日のどちらかに集まって、練習するというのが現状である。そのため、平日と土日を切り離し、集合体が変わると、合同チームは非常に困る。重要な大会が近ければ、平日でも保護者が迎えに来て、集まって無理に練習している。これはしょっちゅうできないと思うし、子どもの安全確保を考えたら、平日に親の送迎があればいいが、徒歩、ましてや自転車なんて使わせられない。

**【委員】**

市内の陸上競技で最近立ち上がったクラブチームがある。クラブチームではあるが、教員が指導をしている。試合のない土日のどちらかだけ、そのクラブに参加している学校が集まって合同練習するものである。陸上競技の顧問は、陸上競技の専門とはいえ、さらに細分した専門種目（短距離、長距離、跳躍、投てき等）は1つか2つしか経験していない。いくつかの学校が集まると、いろいろな種目の専門家が集まるため、これを活用し、もちろん保護者の許可を得て、実施している。このクラブは、今年度、中体連の主催する大会の参加基準をクリアしているため、クラブしか入っていない中学生も大会に出場できる。この生徒は、週1しか練習しないが、大会にも出場している。

これは、勝利至上主義で、部活動ガイダンスにのっとらない練習をさせているのとは全く違い、あくまでも、専門家に習って、少しでもスキルを上げたいという子どもたちのリクエストにこたえる意味で立ち上げたクラブである。これも地域移行のあるべき姿の一つなのかなと私は思って見守っている。

**【委員】**

「土日だけ」という発想はあるが、コンクールに入賞するレベルを目指すのは無理だと思う。しかし、そうではない場合は、可能であると考えます。

私は、大学で音楽を教えているが、ピアノが全く弾けない学生や、ギターを弾きたい学生等も指導している。ギターは、基本的な動作以外、私が教える

ことができないため、本人がオンライン動画等を見て、自力で練習し、その結果、発表会で上手に演奏していたため驚いた。また、ピアノは、私が指導している場面を撮影し、それを見ながら1週間自己練習してくるが、結構弾けるようになっている。

楽器の場合は、平日の練習は、例えば専門ではない先生に見守ってもらい、楽しむ活動であれば可能ではないかと思う。

#### 【委員】

おそらく、スポーツ・文化を楽しむ側面がないと、活動自体がもたない。そして、チャンピオンスポーツを目指す人には、特殊な道をつくる。そういう選択肢ありきのスタンスで考えることができれば、どちらの活動も生きてくるのではないか。

#### 【座長】

以上で、本日の議事を終了する。